

功徳廟金部長殿

豊川丸遭難(觸雷)報告

海軍徴備船豊川丸船長山縣氏緒

豊川丸

五二三噸九六

噸數

九節

船長氏名

山縣氏緒

年月日時

昭和貳拾年七月五日壹六時〇七分

場所

觸雷位置下関海峡西口西港防波堤灯台ノ西度二〇米

沈没位置同

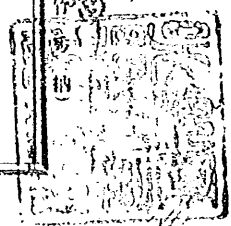
二八〇度三〇米

一海上ノ模様

曇天北西ノ和風海上小波視界約六〇〇米潮流東流ノ初期

流速約一五哩

二計畫



本船八具、若松及門司港ニ於テ木材五六回遊ハ二回空ト云云九四。缶
増槽ニ五七個、酸素瓶ニ五〇本九三式練習機六台、索引及給油
自動車一三台、發動機検査器二台、真空ポンプニ台。

信管及爆彈ニ五七個、一式陸攻翼端外丸。個瑞雷用運搬車

外一五五個、種蜂ニ〇〇。函部隊貨物一五〇立方米、陶器ニ

三。桐箱送品ニ。桐便乗者准士官以上一九名、下士官兵及

一級五六三名ヲ搭載シ門司港出帆、鎮海至由、釜山港

ニ向ハントス

三、事前知得ノ敵狀警報ノ有無

敵機ハ海上輸送妨害ノ目的ヲ以テ本邦重要港灣及水道

等ノ航路上ニ機雷ノ投下ヲ行ヒ関門附近又慶々之カ目標

トナリシガ最近ニ於テハ七月二日ニ三三〇頃下関海峡西口附近

ニ機雷投下ヲ行ヒ爾後引続キ鉄線ノ航行禁止中ノ處

七月五日〇八〇〇頃海峽西口第三掃海水路ノ航行禁止解除サレ

四、航海上特ニ留意セシ事項

航海中第三掃海水路通過近ハ觸雷爾後洋上航海ニテハ
 敵機ニ依リ被襲撃ノ危険アルヲ以テ予メ第三掃海水路
 通過近ハ努メテ甲板上ニ又通過後ハ成可ク船艙内ニシテ様
 一般ニ注意シ置キト共ニ萬一ノ場合ハテ慮リ救命胴衣各自
 ニ分配シ救命筏ヲ甲板各所ニ配分シ置キ救命艇即時
 降下ノ準備ヲ整ヘルト共ニ船員及警戒隊員ヲ所要ノ配置
 ニ就カシメ一般便乗者ヲ各班ニ分テ班長ヲ撰定シテ應急ノ
 場合ニ處シ指道セシムル様準備シ置キタリ

五、航海実施及遭難状況

昭和二十年七月五日一五五門司港第八番浮標(現在撤去中)ノ位置
 ヲ吃水船ニ米七〇艇五米四〇ニテ出港爾後門司武官府ヨリ

指示サレタル航路ニ依リ海峡西口ニ向ヒ彦島西山沖ニ至ル先人
ヲ下船セシメタル後約八節ノ速力ニテ航行中今日一六〇七前記
ノ位置ニ於テ觸雷大音響著ト共ニ第四着艦直下機関室寄
リノ位置ニ於テ爆発シ船体及機関ヲ破壊浸水シ船体ハ急
速ニ右舷ニ大傾斜ヲ成シ沈没ハ免レザルモノト認メタルヲ以テ
急遽右轉シ陸岸ニ乘リ揚ゲ以テ人命及搭載貨物ヲ救
助セントセシモ既ニ機関ノ破壊ニ依リ操縦不可能トナリ遂
ニ陸岸ニ到達スル事能ハズ前進 隋力ニ依リ西山麓防波
堤灯台ヨリ二八〇度一三〇〇米ニ達シタル際停止シ航路ヲ離脱
シタルヲ以テ右舷錨ヲ投ジ以テ航路ニ近接沈没スルノ危険
ヲ避ケル手段ヲ執リタリ、 船体ハ前記ノ如ク觸雷直後
右舷ニ大傾斜シ約六十度ノ船尾ヨリ急速ニ沈下シ船尾海
底ニ達シタル際第四着艦船ノ位置ニ於テ折損セルモノノ如ク

六、救助處置

船体前半ハ傾斜ニ依リ船口ヨリ漸次浸水シタル後沈没ス
 觸雷後沈没見カレザルモノト認メタルヲ以テ乗組員及警戒
 隊員ヲシテ急遽救命艇及カタクシヲ降下セシメ婦女子ヲ優先ニ
 收容ス。附近砲台中ノ汽艇ヨリ短艇ヲ降下シテ救助ニ來着
 セルモノ多ク又附近航行中ノ汽艇及魚船等遠早ク召集レ
 救助作業ニ協力シテ收容ス。船員及警戒隊員ハ克ク
 其ノ職責ヲ盡シ人命救助ニ致協力盡瘁ニ最後ニ
 船長ノ命ニ依リ海中ニ飛び込ミタル後救助サレタリ

七、被害ノ概要

(1) 積荷、急速沈没シタルノ積荷ハ救助手段無ク殆んど全損
 状態ニアリ一部木材及空ドラム缶ハ自己ノ浮力ニ依リ海上
 ニ漂流セリ

官步四

海軍

(2) 人員別紙明細書ノ通り

(3) 兵器、兵備品、貸典品並ニ糧食

急速沈没セル為全部亡失セリ

(4) 軍裝品所持品等

船員警戒隊員、便乘者共僅カニ身ヲ以テ脱レタル狀況ナリ

頭書物品殆ンド救助ノ手段ナシ

(5) 機密書類一部救助困難ナルモノ沈下處分セル外其ノ大部ハ

退船時持参セリ沈下セルモノハ鐘ヲ附シアルヲ以テ敵手ニ渡ル虞

レ無シ

八 遭難後、處置及行動

船長ハ救助作業ノ終リト共ニ最後ノ汽艇ニテ人員ヲ取纏メ

現場ヲ引揚ゲ門司海軍武官府ニ出頭武官ニ對シ遭難ノ

顛末ヲ報告ス 戦傷者ハ小倉陸軍病院、船醫ニ病舎

一字挿入

イ三六司令部病舎ニ夫々分輕收容サレ健在ナル船員ハ宿舎
へ警戒隊員ハ船中宿舎ニ分宿ス。

七月三日吳海軍運輸部門司令部ニ於テ乘組船員ノ誓約
式及解散式ヲ行ヒ船長ハ船中運落會ト連絡ヲトリ遭難手

當ヲ支給シタル後解散セシム船長ハ所要ノ人員ヲ残シテ門
司ニ於ケル整理終リ後七月十日残務整理ノ爲吳ニ到着セリ

九 手抜ガリ又ハ過誤ナリシト認めラル、諸件
無シ

○ 其ノ他參考トナルベキ事項

便乗者中殊ニ第五十三奥雷調整班及第五四奥雷調整
班下士官兵ニ犠牲者ノ多キハ同部隊ヲ收容セル第五四番船
架設居住区直下ニ於テ機雷ノ爆發セシ為メナリ

終リ

(省秀稿)

右報告候也

昭和三十年七月十三日

海軍

二字訂正
二字訂正

57334

昭和三十年七月五日

海軍鐵備船 皇州丸 船長 山縣 氏 緒
皇州丸 戦没者 名簿

皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸
皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸
皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸
皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸
皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸
皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸
皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸
皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸
皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸
皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸	皇州丸

海軍

海軍機務船隻川之使乗者(戦死者)名簿									
軍人ノ部									
階級	氏名	兵籍	備考	階級	氏名	兵籍	備考	階級	氏名
新中尉	天名	兵籍		一等	丹生善一	兵籍		一等	山道定忠
大士	鶴田長門	兵籍		一等	高津健	兵籍		一等	三宮笑雄
	岡島善太郎	兵籍		一等	脇正雄	兵籍		一等	松本忠雄
	大賀源次	兵籍		一等	佐藤孝喜	兵籍		一等	栗林彦藏
	渡辺靖雄	兵籍		一等	竹内勝美	兵籍		一等	水嶋漢太郎
	川崎智	兵籍		二等	中井成一	兵籍		一等	村川繁一
		兵籍		二等	安原忠則	兵籍		一等	藤野高榮
		兵籍		二等	山道定忠	兵籍		一等	
		兵籍		二等	三宮笑雄	兵籍		一等	
		兵籍		二等	栗林彦藏	兵籍		一等	
		兵籍		二等	水嶋漢太郎	兵籍		一等	
		兵籍		二等	村川繁一	兵籍		一等	
		兵籍		二等	藤野高榮	兵籍		一等	

(竹分冊)

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
一	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
宇野實勝	村上昂	福家芳輝	原一	嘉陽宗馨	長水久行	福井正孝	中井茂	吉野輝男	坂本幸	策田勇	久保田順平	廣那義夫				
一〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
古川政吉	山田厚郎	石田太三	土谷正己	久保田早太	森岡健助	小西幸次	車谷太吉	入江兼太郎	畑口理平	山田二	茅島定勝	松本茂				
七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇

海 軍

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	魚朝	新
													舊
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一	等級
小細熊太郎	一瀬義雄	大友利夫	高橋芳一	香西 薫	坂口逸喜	武生 猛	井上健太郎	福田長太郎	阿部忠次	永島 溜	高橋次男	氏名	
七〇三三六	七〇三三六	七〇三三六	七〇三三〇	七〇三〇九	七〇二八六	七〇二九八	七〇二〇四	七〇二〇五	七〇二〇二	七〇三五三	七〇六六六	兵籍	
												備考	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	魚朝	新	
													舊
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一	等級
室忠心夫	山田文市	野善正人	坪根芳松	山本長三郎	岸由重市	足立 一	岩井 一	和田 茂	小山駒四郎	小久谷操大	坂本直次	氏名	
七〇二八五	七〇三〇五	七〇二七五	七〇二八〇	七〇二七五	七〇二〇六	七〇二九四	七〇二七八	七〇二〇六	七〇二〇五	七〇三〇三	七〇三〇六	兵籍	
												備考	

(竹秀樹)

一般便乗者

海軍徴傭船豊川丸便乗者(行方不明者)名簿

便乗者	出立地	行先	身分	氏名
呉運	鎮海工	鎮海工	工員	各時雄
川司支那	滿洲国	大連汽船	一航	渡辺時雄
	上海大使館	大連汽船	一航	藤江豊
				以上計 四名

海軍功績調査部長殿

海軍功績調査部

東州丸戦闘報告

一 船名 東州丸

總噸數 二二五噸

船長 岡段 英四郎

二 時刻 場所

昭和三年七月一日 二三二〇

下関税関真方位 一二九度 四六〇米

三 形勢

敵狀不明(警報発令中ナルモ不明)

下関港碇泊船數

天候曇 視界不明

四 計畫(目的及企圖)

入渠目的ヲ以テ空船ニテ下関碇泊中

五、経過

昭和二十年七月一日三三〇下岡第一浮標撃留中福岡縣田
浦上空ヨリ敵機B29約六十機在泊艦船及下岡市内司市
ニ對シ燒夷彈攻撃ニ没入スルヲ発見直ニ之ヲ攻撃撃
退セリ

六、成果

射撃効果不明ナルモ、後襲撃ヲ受ケルコトナク羽立〇四、五〇警
報解除サル

敵機燒夷彈投下ニ依リ下岡市及内司市在港艦船ニ火炎
發生若干ノ被害ヲ受ク

七、人員及船体、損傷調

一、兵員一名燒夷彈落下ニ依リ打撲傷ヲ受ク他異状ナシ

并燒夷彈落下ニ依リ十三機銃彈倉及彈藥九個損傷ヲ受

2346

他ノ異状ナシ

二、燒夷彈落下ニ依リ十三粒機銃彈倉及彈藥九個損傷ヲ受
ク他ニ異状ナシ

三、燒夷彈落下ニ依リ一、二番艙左舷ニ経約四十粒ノ破孔ヲ生ジ
救助艇一隻損傷セリ其他若干ノ被害及火災發生セルモ被
害僅少ナリ 機南異状ナシ

八、總員配置状況

防護部署ニ付カシム

終